

# YAH!



You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

5月は『藤』

## Vol.36 2022.5.10 えんじょい工房・『YAH!』編集室

### 低きに流れる…

矛盾だらけの中でしわ寄せを受けるのは…

さて、ここぞとばかりに、言い訳を用意したうえで西へ東へ人が動く。規制がないからというのは、あまりに思慮に欠け、手前勝手というほかないだろう。

やがて騒乱はぶり返し、その際に、あの時に動いておいてよかったとほくそ笑むか、それみたことかと眉を顰めるか、ただただその結果として、じっとしていたのになぜ苦しまされるかと怒り嘆くことになるか、ちよつと考えれば誰もが思い当たることを誰も見えて見ぬふりをして事態を悪化させ、そうしたうえで、責任は自分にだけはない！とうそぶき開き直る。まさに悪循環と言わざるを得ない。

ならば、「いつそのことじっとしている！と言ってくる！だったら、その通りにする」では、あまりに稚拙に過ぎる…と思う。花見に帰省、そして温泉旅行、ついでにハワイ、誰かに煽られ、唆されているとしか思えないが…

### 【こんな唄に出くわした⑥】 町の酒場で

作詞・作曲：浅川マキ

町の酒場で  
酔い痴(し)れた女に  
声をかけてはいけない  
どんなにあんたが  
淋しいときでも  
昔あんたが  
恋した人に似ていても  
声をかけてはいけない



何をかいわんや！浅川マキの名曲(恥ずかしながら当時の記憶なく、ネットによると、どうやらそういう事らしい…)である。

舞台は場末であっても、決して下品でなく、そっけなくとも、それでいて限りなくやさしい…

発売当時は未成年でもあり、さすがに、こういった場所への出入りはなく、こんな人間関係に触れることもなかったが、もう五年、いや十年後ろに時代がずれていたら、きつとどっぷりとこの雰囲気に浸かっていたらうにと思うのである。

### 【こんな映画を観てきた】

#### 『まぼろしの市街戦』 The King of Hearts

—1967/仏 監督: フィリップ・ド・ブロカ

第一次大戦中、パリ北方の小さな村を撤退するドイツ軍は時限爆弾を仕掛けた。爆弾を見つけて撤去せよと命じられた主人公が見たものは、村は噂におびえ、大半が避難し、残されたサーカスの動物と精神病院の“患者”だけだった。猛獣は往来をさまよひ、解放された“患者”たちはそれぞれ空家に入りこんで夢のような生活をはじめた。彼は善良な患者たちを避難させようとしたが誰も動かず、ついに最後の数時間を皆と共に楽しむ決心をし、時限爆弾を無事撤去した。そんな中、戦略的要地のこの村で独軍、英軍は激戦を展開、相撃ちで双方とも全滅した。“患者”たちは余りの狂気の沙汰にゲンナリして精神病院に帰っていった。やがて、主人公は軍を脱走し、素っ裸になって精神病院の門をくぐり、“友人”たちの中に入って行く。

桜と並んで？こちらも相当に妖しい花である。どうにも頭上を一面覆われると尋常な精神状態ではいられなくなってしまう。いずれも色としては淡く、むしろ鮮やかな印象であれば“抵抗”もしてみたくなるのだが、いささか萎えさえる、つまり力が抜けるといいうか、とにかくはつきりしないのである。

藤